

松林分館だより syourin

福生市武蔵野台 1-15-1 電話 552-3624

松林分館

利用者交流会研修



9月8日(土)に「東京都水の科学館」、「東京臨海広域防災公園」で行われました。

これは、体験学習等を通じて、防災への関心を高め、実際に災害に対応できる知識や知恵、技術、自助・共助の心を学ぶことや参加者の交流を目的に実施したものです。

昨年は、災害の体験談を話し合い、「普段からの関わりが協力にもつながる。」ことなどを話し合い、これからも研修を重ねて行くこととしていきます。

今回31人の方が参加しました。参加者のお一人から感想をいただきました。

細谷由利江(コール・コスモス)

最初の水の科学館での水の旅シアターでは、前方左右天井に映し出される大迫力映像にはびっくり。

森と水を守る水の不思議、おいしい水のひみつ、と私たちの生活の中で大切な水について科学の視点で紹介し、水と水道への興味を深める体験を実感しました。

次に東京臨海広域防災公園では、大規模な災害発生時にどのような行動をしたら生き残れるか?

発生から脱出避難場所にたどりつくまでの体験を学習しました。今回参加者は31名でお世話をい

いただいた小野会長、吉岡副会長両氏にバスの中でも場を盛り上げていただき利用者館の交流が深まったのではないかと感謝しております。

初めての研修会参加でしたが、顔なじみの方と楽しい一日を過ごさせていただきました。

小嶋弘子(暮女会)



「東京都水の科学館」では真空にする瞬間に氷になる現象におどろいたりシャボン玉の輪の中に入る体験など童心に返る楽しみもありました。

次の「東京臨海広域防災公園」で地震体験コーナーに入ると同時に心臓が高なり、自分がパニックに陥りやすい性格だと実感しました。

展示室の防災グッズには笛にラップを付けたものなど、アイデア商品が大いに参考になりました。研修後、防災用品の点検を行った地域の方との連携を考える良い機会となりました。



第32回

だれでもなんでも展



10月20日(土)・21日(日)午前10時〜午後4時

地域をつなぐ虹の架け橋だれでもなんでも展

松林分館利用者サークルや地域の方など、どなたでも参加できるミニ文化祭です。日頃の学習の成果を発表します。観て、聴いて、食べて楽しいひと時をいっしょに過ごし、交流の輪を広げませんか。

- 展示 ステンドグラス、陶芸、水彩画、竹細工、写真、生け花、押し花、争や平和に関する絵本などを朗読、手紙、書道、ドルハウス、きもの、読みます。日時10月21日(日)ピース作品、篆刻、盆栽、手芸、ウェルカムフラワーほか
- 体験コーナー他
 - 「からくり絵」作り(20日午前)
 - 「くうきでつぼ」作り(20日午後)
 - 絵手紙(21日午前11時〜正午 午後1〜3時)
 - 保健センターによる健康相談(21日午前10時〜午後3時)

- 模範店 焼きそば、綿アメ、ポップコーン、五目寿司、赤飯、かけそば、フランクフルト(20日)、クッキー他(21日)、喫茶室開店(コーヒー、紅茶、焼き菓子、ぜんざい)
- 日舞(子ども)、剣詩舞、童謡



昨年の「だれでもなんでも展」(演示)より



「からくり絵」と「くうきでつぼ」



青梅線福生駅東口 (昭和43年)

JR青梅線福生駅

松林分館は、JR青梅線福生駅から徒歩10分ほどの場所にありま

す。青梅線は、明治27年に敷設され、それにより西多摩では初めて汽車が走りました。大正12年には電化されています。

この福生駅ができてから駅前に店舗ができてはじめて、また現在の第一小学校が加美地区から今の地へ移転(明治42年)したこともあり、駅前周辺は福生の中核になっていきました。そのころの福生駅前通りでは、「だるま市」、「難市」や「年の瀬市」が開かれていたそうです。時は移り昭和59年に福生駅東口土地区画整理事業が、昭和61年に福生駅橋上駅舎・自由橋が完成しました。

(参考文獻 福生市史、広報ふっさ)



松林分館利用者交流会では、8月26日(日)「ソーメン流し」を開催しました。(約100人参加)

